

～未来をつくる子どもたちの豊かな心をはぐくむために～



道德のとびら

あなたとつくる“笑顔があふれる世界”

～みんなが笑顔になるヒントを探してみよう～

あなたが笑顔になると、家族や友達も自然と笑顔になることがありますよね。そんな笑顔がもっと広がり、自分も友達も、誰もがやさしい気持ちで過ごすことができるようになるためには、どんな思いが大切なのでしょう？

イラストを見て、「お友達はどんな気持ちなのかな？」「そこに自分がいたら、お友達にどんな言葉をかけるかな？」と心の中で考えながら、みんなが笑顔になるヒントを探してみよう！



お友達の考えを聞いてみよう
笑顔になるヒントは...
お友達や先生方、
家族と話合ってみよう。

見つけてみよう
応援したり、
背中を押したりしたい
姿はありますか？

見つけてみよう
「自分もしたことがあるな」
「してしまう気持ちが分かるな」
という姿はありますか？

“みんなが笑顔になるヒント”を道德教育推進校の取組や「モラル・エッセイ」コンテストの作品からも探してみよう！



見つけてみよう
「すてきだな」
「まねしたいな」という
姿はありますか？

となりのページも
見てみよう

ふくしま応援！
「ペコ太郎」

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



福島県教育委員会



!!心が動き体が動く!! 生き方を見つめる道徳教育

どう とく きょう いく すい しん こう とり くみ
~道徳教育推進校の取組から~



主体的な生き方を見いだす「人との関わり」 本宮市立本宮第二中学校

本宮第二中学校では、「人との関わり」を意識しています。人との関わりはまずあいさつから、ということであいさつを大切にしています。
ゲストティーチャーを呼んだり、友達と話し合ったり、部活動を通して他校の生徒と交流したりといった活動の中で積極的に考えを伝え、意見を交流させることで、自分の生き方を振り返ることができるようにしています。



「地域創生に関わる日本一の学校」を目指して 湖南高等学校

コミュニティ・スクールとして、地域の皆様と協働し取り組んでいる「米粉大作戦」の一環。田植えをしている様子がこの一枚。今年度は、田植え予定日の天候が雨天だったため、放課後の時間帯に有志生徒が集い、校長自らが率先しての田植え指導！有志生徒が素足で土の感触を味わいながら楽しく田植えを経験しました。なお、日々の生長についての観察記録は、本校ホームページでも紹介しています。ぜひご覧ください。



地域とともにある学校を目指して 白河市立東北中学校

フリーアナウンサーの大和田新さんをお招きして講演会を行いました。東日本大震災当時を知らない生徒たちは、市内・県内の被害状況、津波等で亡くなった方々の家族の気持ち等を聞き、生命の尊さ、家族・郷土の大切さを再確認することができました。また、今回の講演を、保護者や地域の方々と一緒に聞き、感想を述べ合えたことで、お互いの思いを共有するとともに、思いを伝える表現力を高めることができました。



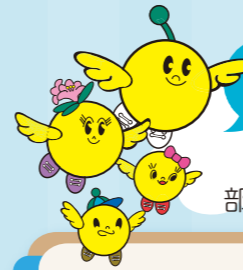
歴史あふれる下郷町 下郷町立檜原小学校

下郷町には、「大内宿」「塔のへつり」「観音沼森林公園」等、数多くの観光スポットがあります。檜原小学校では、総合的な学習の時間において、「下郷の観光業」をテーマとし、自分たちの住む地域について課題を見つけて探究活動を行っています。
写真は、「弗(へつり)工房」で白木のこけしに絵をつけ、世界に一つだけのこけしを作るための説明を受けている様子です。このような体験活動を通して、地域とのふれあいを大切にしていきます。



気づき、考え、行動する いわき市立中央台東小学校

中央台東小学校は、「未来を奏でる きらめく感性」を育むことを目指し、対話的な学びのある授業づくりに力を入れて取り組んでいます。
今年度は更に、道徳科の授業を要とした道徳教育の充実を通して、児童が自ら「気づき、考え、行動する」具体的な姿を創り出していきたいと考え、写真に写る児童の円陣のように、教職員・児童が一丸となって日々様々な活動に取り組んでいます。



「モラル・エッセイ」コンテスト最優秀作品

県教育委員会では、毎年「モラル・エッセイ」コンテストを行っています。今回紹介するのは、令和6年度の部門別最優秀作品です。次は、みなさんの心温まる体験談やすてきなエピソードを、ぜひお聞かせください。

*中学生の部「傘の花が咲く時に」 いわき市立小名浜第二中学校 1年 滝澤 応維

黒、白、黒、黒……。傘の花が咲くのは雨の日に限らなくなった。猛暑を通り越して、命の危険すら感じる暑さに、日傘は必需品となってきている。髪型を崩すことなく、日焼けや暑さから身を守れるとあって、最近では男性でも使用している人を見かけるようになった。
環境省でも、「夏の熱ストレスを一人ひとりの工夫で低減できる暑さ対策として、暑さ指数の低減効果が比較的高い『日傘』の活用」を推進している。高機能な日傘を使用すれば熱中症警戒レベルが一段階下がるそうだ(環境省「報道発表資料」参照)。
涼をとるのに便利な日傘だが、不快な思いをすることも。それは私の大好きなテーマパークで並んでいた時のことだ。炎天下では日傘をさしたまま列に並ぶ人も少なくない。
左手に日傘、右手に携帯扇風機もしくはスマホ……。自撮りを楽しんでいる人の傘の露先が何度も顔や腕に当たった。すごく痛いわけではない。しかし、何度も刺さる露先に、気温と共に自分の怒りも上昇していく。
時をさかのぼること江戸時代。せまい道ですれ違う人々は、お互いに傘の骨がかからないよう、反対側に傘を傾けていたそうだ。「傘かしげ」という文化だが、日傘でも使えるのではないかと思い、私も実践してみた。すると、混雑した場所で傘を傾けただけで、すれ違った人から、「すみません。ありがとう。」という言葉がかけられた。たったこれだけのことで、知らない人との間に良い関係が築けた気がして、嬉しくなった。ほんの少しの行動の先読みと相手への気遣いがあれば、丸く収まる問題なのだ。
傘かしげは粋な江戸の文化とされている。誰もが嫌々ではなく、自分は粋だと思って傘をかしげられたら、怒りでモラルを問う必要もなくなるだろう。傘の花と一緒に、心の花も咲かせられたら粋だな、と私は思った。

*高校生の部「弟よ、ぐんぐん育て」 福島県立好間高等学校 3年 松本 美咲

「おんぶして。」
太陽の光が照りつき、顔から雫が落ちる、ある暑い日。ふり返り視線を落とすと、そこには私の胸あたりまでの背丈しかない男の子がいた。私の6つ下の弟だ。その日は家族みんなが休みの日で、母のお昼ご飯ができあがるまで、散歩をしていた。私は「しょうがないなあ。」とその場で膝を曲げて再び弟に背を向け、両手で自らの背中をたたいた。脇と腕の間からゆっくりと弟の足が生えてきて、それをしっかりとつかみ、立ち上がった。少しの間、地面との距離が近かったせいだろう。ぼたぼたと汗が流れた。暑い。まだ小学2年生だった弟を背中に乗せて、家へと歩いた。もう4年ほど前の出来事だ。
ふとそんなことを思い出して、私は頬づえつきながら、リビングで懐かしさに浸っていた。弟もすっかり大きくなって、気づいた頃にはあつという間に私の頭を追い抜かしていた。もう私におんぶして欲しい、と弟がねだることはないのかもしれない。少し寂しさを感じていると、「前まではおんぶしてあげていたけど、今ならおんぶされることもできるんじゃないの。」そう母が言った。エスパーかと思った。弟は母の言葉を聞き、立ち上がると私に背中を見せた。「あんなに小さく見えた背中がこんなに大きくなったんだ。」と成長を感じた。肩に腕を回すと、弟は私を持ち上げた。
以前よりできることが増えて、日々大きくなっていく弟を見ていると、小さい時とは違うことに切ない気持ちもあるが、その反面、嬉しくも思う。最近では、ご飯もたくさん食べて、苦手だった運動も、少し楽しそう。今までも、これからも変わらず元気に成長する弟をこの目で見ていきたい。そしていつか2人とも大人になったら、どこか綺麗なところに行って、あんなこともあったなと思い出話をしながら、今度は並んで、散歩もしたい。

*一般の部「ゾウさん」 会津若松市在住 小坂 ひろみ

あれはいつのことだったろう。子供たちを保育園に送るために、急いで玄関を出た時のことであった。
「ママ、そこダメ。」
と足止めをされたのである。急いでいたためイラ立ちを隠せず、
「なんで？」
と言うと、のんびりと子供たちは、
「見て!! ママ。ここにゾウさんがいるの。」
と。見るとそこは、アスファルトの地面。さらに子供たちの小さな指が差し示すところを見ると、確かに長い鼻のゾウの形をした小さな石があった。
「ゾウさん、行ってきまーす。」
とバイバイまでした子供たち。その姿を見た時、何だか恥ずかしくなったのを今でも思い出す。忙しくて、周りを見渡す余裕もなく、イライラしながら仕事に向かって、表情すら険しくなっていた自分がいたからである。その日から、足元をふっと見て、ゾウさんに、「行ってきます。」と言うようになっていた。その私の姿を見た子供たちは喜び、毎朝一緒に言いながら家を出ることができた。
あれから二十年近くたち、子供たちも大学4年と2年、下の子も高校3年生となった。今では私より身体も態度も大きくなっている。そんな彼たちではあるが、この夏休みに、
「あれ、まだゾウ、いるじゃん。」
と三人で大きな身体を小さくして地面を見つめていた。思わず笑顔になった。
新型コロナだ、地震だ、事故だ、事件だ。世の中では、心が痛み、表情も険しくなってしまうような出来事が多い。そんな今だからこそ、心にゆとりをもって、前向きに、笑顔で過ごしていきたい。
朝、家を出る時、ふと足元を見る。子供たちが見つけた「ゾウさん」は今でも私たちを見送ってくれている。
「ゾウさん、行ってきます。今日も一日、がんばってくるね。」



「モラル・エッセイ」コンテスト優秀作品集は、義務教育課ホームページから御覧いただけます。

義務教育課 道徳教育のページ

